

振動数を上げましょう！

笈川： 皆さん、こんにちは。一週間ぶりの日本語討論会の時間です。この一週間、王さんはしっかりと準備をしてくれましたか？

王： はい、笈川先生が尊敬する「銀座まるかん」の創業者・斎藤一人社長について、本日わたくし、王が発表をさせていただきます。

張： 王さん、テーマはなんですか？

王： テーマは、「振動数を上げましょう」です。

村上： え？振動数ですか？あの、ちょっと、聞いたことがありませんが。

王： 振動数とは、素粒子を回っているエネルギーから発せられる動きのことです。

村上： あの、すみません。説明を聞いても、あまりピンと来ませんが…。

王： 説明自体は難しいですが、要は、ワクワクしたり、楽しんでいたりすると、振動数が上がるということです。

張： あの、それは、元気と関係がありますか？

王： そうですね。元気があるとか勢いがあるとか、そういうことと関係があるようです。そして、斎藤一人さんのお話によると、振動数が上がれば、運がよくなり、ものごとが順調に運ぶようになるそうです。

村上： なんだか、今日は面白そうな討論会になりそうですね。

王： ありがとうございます。では、ここで、張さんに質問です。これまで、誰かがネガティブなことを発したことで、張さんだけでなく、周りのみんなが落ち込んだり、空気が悪くなったりしたことはありませんか。

張： はい、あります。あるクラスメイトに、「笈川先生の討論会に参加しても、日本語が上手になるはずがないし、そんなの意味がないよ！」と言われた途端にやる気がなくなってしまいました。

王： なるほど。そういう時、決してその人のネガティブな言葉に引っ張られることなく、自分の振動数を高くキープすることが大事です。

村上： え？わたしも誰かのネガティブな発言を聞いて、急に元気を削がれてしまうことがあります。それを防ぐ方法があるのですか？

王： はい。自分の振動数を高くするためのコツを、斎藤一人さんはこのようにおっしゃっています。

◎他人を褒める◎動きを少し早くする（速足で歩いたり、新幹線など速い乗り物に乗る）
◎原因を相手に求めず、同調した自分の振動数を下げないようにして、自分から運を下げない◎おしゃれをする◎大きな声を出す◎今よりステキな自分を想像する◎自分を褒めたり励ましたりする◎不安や恐怖を煽るようなことを誰かに言われても同調しない。

王： いかがですか？

張： そうですね。家柄や学歴を変えるのは難しいですが、振動数を上げるのは、いま努力や工夫をし始めれば、すぐにできそうな気がします。

王： はい。これからの時代は、人柄の時代です。ステキな人は、つまり「人として価値があり、ものごとがうまくいく人」で、振動数の高い人です。

村上： 振動数を上げるには、1円もかかりませんよね。すべては自分の考え方、生き方次第ですね。

王： おっしゃる通りです。では、ここでお二人に質問をさせてください。よく、映画館で映画を見たり、歌手のコンサートに行く人がいます。インターネットを使って見れば無料なのに、わざわざ高いお金を出して行くのはなぜだと思いますか？

張： 確かに。ただで見ることができるのに、わざわざお金を出して見るなんて、頭が悪いとしか思えません。わたしにはその理由がわかりません。

村上： そうですね。一度だけ友だちからチケットをもらって、よく知らない歌手のコンサートを見に行ったことがあります。しかし、ただうるさいだけで、観客がどうしてあんなに盛り上がっているのか、どこが素晴らしいのか、わたしにはわかりませんでした。

王： 実は、それによって振動数が上がることを、映画やコンサートを見に行く人たちは、なんとなくですが、本能的にわかっているからでしょう。

張： え？ どういうことですか？

王： まず、コンサートでは、歌手も観客も大声を出しますよね。大声を出すだけで振動数が上がります。

村上： では、映画館に行くのはなぜですか？観客は大声を出しませんよね？

王： はい。大声は出さないかもしれませんが、大笑いすることはあります。それに、おしゃれをして出かけるだけで振動数が上がります。そして、映画を見終わった後、美味しい料理を食べるだけで振動数が上がります。

張： つまり、映画館で映画を見たり、コンサートへ行行って、好きな歌手の歌を聞いたりするのは、単なる浪費ではないということですね。

王： はい。普通の人は無意識にそれを浪費だと思ってしまうますが、成功者はみな、それが大事なことだとわかっているそうです。

村上： わかりました。でも、お金を使わなくても、振動数を上げることはできるのですよね？

王： はい。相手を褒め、自分を褒めるだけで振動数は上がります。反対に、互いに悪口を言い合う夫婦は、自分の振動数も相手の振動数も下げてしまいます。

張： あっ、なんとなくわかります。「お前、最近太ったな」とか、「何よ、この安月給！」とかいう会話ですね。

王： はい。そんなつまらない夫婦喧嘩をするより、「お前はいつも綺麗だな」「あなたもずっとステキよ」という会話をしていたほうが互いの振動数が上がります。

村上： では、自分を励ます言葉を口にしても、振動数が上がりますか？

王： はい。もし風邪をひいたり、体調が悪いなあと思ったりした時は、「わたしはとても元気。この風邪はすぐに治る」と30回言ってください。

張： え？わたしはすぐに「ああ、苦しい。今日は学校休みたいな」って言ってしまいます。

王： そんな言葉を何度も発したら振動数が下がってしまいます。風邪をひきはじめてから一週間くらいはベッドから起き上がれなくなりますよ。

村上： あの、王さん。ほかにどんな言葉を使ってはいけないのですか？

王： そうですね。「できない」「無理だ」「でも」「けど」「だって」「難しい」「大変」「忙しい」「時間がない」などは、すべて振動数を下げる言い方です。

張： あっ、思い出しました。先日、笈川先生が王さんに頼みごとをした時に、とても面倒臭い仕事に見えたので、わたしは「あーあ、王さん、可哀想！」って思っていたのですが、王さんはすぐに「わかりました。お任せください」と言いましたね。

王： はい。面倒臭いと思って、嫌そうな表情を相手に見せれば、相手も自分も振動数が下がってしまいます。しかし、「お任せください！」といったポジティブな言い方をすれば、相手も自分も振動数が上がるでしょう？

村上： なるほど。自分の振動数を上げるだけでなく、周りの人の振動数まで上げられる人になる……。私もそういう人になりたいです。

笈川： あっ、もうこんな時間になりました。王さん、今日は素晴らしい発表を、どうもありがとうございました。

王： いえ、これも全て笈川先生の指導のお陰です。引き続き、ご指導をよろしくお願い致します。

笈川： ありがとうございました。では、今日の日本語討論会はここまでとします。来週の発表は、張さんの番でしたね。どうぞよろしくお願ひします。

張： はい。お任せください！みなさん、来週の発表を、どうぞご期待ください。

全員： ははは（笑）。

【振動数に対するわたしの考え。1分間＝300字以内】

振動数をテーマにしたこの会話文について、自分の感想を述べて参ります。

まず、わたしはあるひとつの実験を思い出しました。アメリカのある老人ホームで、こんな実験をしたそうです。

その老人ホームでは、おじいさんおばあさんたちが青春時代によく聞いていた曲を集め、数ヶ月間毎日流し続けていたそうです。すると、おじいさんおばあさんたちのたるんでいたお肌に、「張り」が戻ったそうです。つまり、お肌が若返ったのです。きっと、これは振動数が上がった結果なのでしょう。

私も若さを維持し、常に元気でいられるように、自分の青春時代によく聞いていた曲を意識して聞くことにしています。以上がこの会話文に関するわたしの感想です。